

[対象入試]

2026 年度 公募制推薦Ⅰ期・Ⅱ期

2026 年度 総合型選抜 基礎学力方式

【国語】

大問5問で構成されており、現代文の基礎的な能力を判定するための試験である。具体的には、1) 漢字の読み 2) 慣用句や四字熟語の理解 3) 前後の文の論理関係の把握 4) 文脈理解 5) 大意の把握 といった、基礎的かつ学習の必要な項目を出題している。これらは受験生に対して、現代文における暗記分野（漢字や語彙）と思考分野（文脈理解や要約）の双方を意識して学ぶ必要があることを示している。

第1～第3問は、文章題ではあるが、文章の長さは1000語から2000語で、比較的短めの文章が用意されている。文章自体は一読すれば内容が理解できる平易なものが選択されており、それぞれのテーマに重複はない。また、出題形式も内容一致（第1問）、接続語の補充と欠落文補充（第2問）、文の整序（第3問）に分かれている。いずれの出題にも「傍線部について答えよ」といった設問がないが、それは部分的な理解ではなく全体の文脈を理解し内容を再構成する能力を判断したいためである。第4問は漢字の読みについての設問である。常用漢字の範囲内ではあるが、音・訓・慣用読み・四字熟語、と内容は多岐にわたっている。第5問は四字熟語、慣用句、熟語の意味をはじめとして、季語、漢字の構成、文学史等さまざまなものである。『国語便覧』などを用いて、国語の基本的知識を着実に学ぶことが求められている。

【英語】

「英語基礎学力検査」は、英語に関する知識の量、つまり今の時点で何を暗記しているかを測るための試験ではなく、これから英語の力を着実に伸ばしていくために必要となる土台が築けているかを確かめるための試験です。

試験は4つの大問から成っています。第1問と第3問が客観問題で、第1問では文法・語彙問題が5題、第3問は語句の並び替え問題が5題出題されます。並び替え問題の英文には日本語の訳が付いています。第2問は会話問題で、10行から15行程度の簡単な日常会話を読み、5つの空欄に入る適切な英文を選ぶ問題形式になっています。第4問は総合問題で、250語から350語程度の長さの英文を読み、主に内容把握を問う設問に答えます。設問は、本文に出てくる語の発音問題を含め10題出題されます。

この試験は、なるべく短い時間で苦勞なく解けるように考え作成されています。客観問題を含め、会話問題・長文問題も分かりやすく、かつ英語として自然な文章が素材として用いられています。この試験で満足のいく結果を出すことができれば、英語を学ぶ上で十分な基礎力があると言えます。あとは自信を持って、どんどん先へ進んでいってください。